

## 「旧古河庭園」と「六義園」そして「巣鴨地蔵通り商店街」(2019/5/28)

担当C班 石谷

西部池袋駅に9:10に16名が集合し、JR駒込駅の北側(約800m)と南側(約600m)それぞれ近くにある旧古河庭園と六義園(りくぎえん)の庭園巡りツアーを行いました。そしてその後、オプションとしておばあちゃんの原宿こと「巣鴨地蔵通り商店街」を散歩しました。

旧古河庭園(午前)と六義園(午後)を訪問することから、初めの旧古河庭園窓口で両園共通の入園券「園結びチケット」(65歳以上200円)を買いました。購入に先立ち、「園結びチケット」を買いましょうとメンバーの皆さんに声掛けをしたところ、「縁結び……」と捉えられて戸惑われた女性がおられました。

6月2日まで開催中とされる「春のバラフェスティバル」において、今年は初夏の訪れが早いのか開花状況はピークを過ぎており、咲き誇りの華やかさは残念ながら見られませんでした。しかし、遅咲きのバラがあり、バラ特有の気品やしとやかさ、可愛らしさ、優しさなどを愛でることができました。庭園の主が住んでいた黒い「洋館(旧岩崎邸)」は、やはりパンフ通り緑の中にあり、大正ロマンを感じさせるものでした。

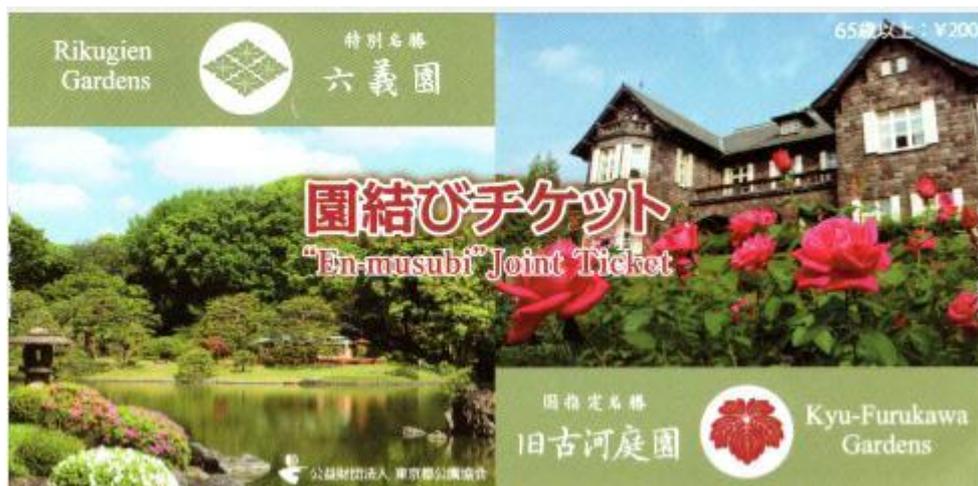


図1 旧古河庭園と六義園の共通入園券「園結びチケット」



図2 旧古河庭園の洋館



図3 旧古河庭園のバラ



図4 旧古河庭園の洋館をバックにして

昼食は、メンバー全員が会食するに適する店が駒込駅周辺に無く分散になりました。ある人たちはお好みの小さなお店へ、またある人たちはコンビニで弁当を買い込んで六義園へ向かいました。

六義園は、面積が旧古河庭園と比べて約3倍もある江戸時代を代表する「大名庭園」です。この時期は、最も人気のある桜や紅葉の季節ではなく、サツキの終盤期に当たり、客数も少なくゆったりと巡れました。庭園自身の姿は、日本各地の風光明媚な景勝地を園内に88ヶ所も再現したと説明されており、さすがに繊細で優美なものでした。園内の一番高い築山「藤代峠（ふじしろとうげ）」のいただき（富士見山と呼ばれる）からは、園内を眼下に見晴らす展望が開けました。この築山は標高35mあり、昔はここから筑波山や富士山も見えたそうです。また、江戸100名山の一つだったそうですが、まあ納得でしょうか。



図5 園内の一番高い築山「藤代峠」のいただきから眼下に見晴らした展望



図6 (a) 六義園の園内にて



図6 (b) 六義園の園内にて

両園の庭園巡りツアーを終え、次は、「巣鴨地蔵通り商店街」の散歩（オプション；14名の参加）です。両園が駒込駅から近かったこともあってか、少し歩き足りないとの声が上がりました。そこで「駒込駅からJR山手線西隣の巣鴨駅までのJR乗車」の予定を、「巣鴨駅へ徒歩（約1km）」に変更しました。

「巣鴨地蔵通り商店街」では、入ってすぐの店で巣鴨名物「塩大福」を食べたりお土産にしたり、また「赤の力」で元気と幸福を呼び込む「赤パンツ」を見て体が温かくなってきた気になったりしながら、「とげぬき地蔵」に到着。実は、この「とげぬき地蔵」とは、曹洞宗高岩寺（そうどうしゅうこうがんじ）にある延命地蔵菩薩（秘仏のため非公開）のことです。その境内で、私たちメンバーも他のお年寄りたちと混ざって「洗い観音（正式名：聖観世音菩薩）」を水で洗いました。「自分の痛いところと同じところを水で洗うとその痛みが良くなる！」とされています。



図7 「洗い観音」を水で洗う

\*\*\*\*\* 補 記 \*\*\*\*\*

SAさんから、「前にここに来た時、何か小さな紙のようなものを飲み込んでお参りしたことがある。そのような紙は今でも有りますか？」と質問を受けました。「いや、知りません。何処か他所のお参りの記憶と混同しているのでは？」と応えました。帰宅して、気になり調べました。私方の勉強不足による大誤りと判りました（本報告の最後ページ「[ご参考](#)」参照）。お詫びいたします。

\*\*\*\*\*

「とげぬき地蔵」の次は、庚申塚（こうしんづか）です。庚申塚は、地蔵通り（旧中山道）沿いに展開した巣鴨町の北東端、すなわち地蔵通りの出口に相当し、都電荒川線との踏切直前の交差地「庚申塚」の横に位置しています。中山道板橋宿に入る前の立場（休憩所）として賑わったそうです。

庚申塚を最終訪問地として池袋駅に戻ることにになります。一グループは、庚申塚から地蔵通りの東側横に並走する「白山通り」に出て、都電バスを利用しました。残り1グループは、未だ歩き不足とのことで、庚申塚から徒歩で池袋に向かうことにしました(約2.5km)。地蔵通り出口をさらに直進して明治通りとの交差点まで進み、そこを左(西)に折れて歩き歩けば池袋に到着です。

本日の天候は、前日3日間の最高気温が31℃と連続真夏日であったのに対し、最高気温は27℃と4度も下がった夏日になり、しかも曇り空で風がありました。涼しさを覚えた好日となり、2つの美しい園庭巡りはもちろん、歩き足りなさを感じた方にはそれを解消させる徒歩移動も急遽取込み、心身ともに満足できた楽しい活動日になりました。

## ご参考

### A. 「とげぬき地蔵」の由来

Ref.1 <https://www.nenkinoyaji2592uechan.com/togenukijizou-yurai/>

Ref.2 <https://widerangesite.com/435.html>

江戸時代中頃の正徳5年(1715年)に毛利家の女中さんが誤って針を飲み込んでしまい、地蔵尊の御影(みかげ; おみかげ; おすがた)のお札を飲んでからそのお札を吐き出して洗ったところ、お地蔵様に針が刺さっていたことから「とげぬき地蔵」と呼ばれています。

が……それ以前の正徳3年(1713年)の5月に田村又四郎という小石川に住んでいた町人が妻の産後の肥立ちが悪く困っていましたが、妻の生家の怨霊に祟られていたからだと言われていました。又四郎は妻が信仰している地蔵尊に毎日祈願をしていたところ、夢に僧が現れて地蔵菩薩の印像を授かりました。そしてその印像から1万体の御影を作って隅田川に流したところ病気が治ったといわれています。

### B. とげぬき地蔵の「飲むお守り御影」

Ref.3 <https://www.nenkinoyaji2592uechan.com/togenukijizou-mikage/>

「とげぬき地蔵」は、秘仏のため実際に参拝することができません。そのため本堂で授与される御姿をもとにして作られた「御影」に祈願するとご利益が得られるといわれています。「御影」は、とげぬき地蔵の本堂でいただける地蔵菩薩(延命地蔵)の姿を刷った薄い和紙のお守りです(5枚入って100円です。サイズは縦4cm・横1.5cmの大きさです。)

その具体的な使い方は、体の痛いところに御影をあてて軽く撫でながら「南無地蔵願王尊(なむじそうがんのうそん)」と数回唱えて御影を水で飲んでくださいとのこと。ちなみに御影を折折りたたんだり丸めたりしても良いそうですが、ちぎってはいけません!そしてあくまでも「お地蔵さん治してください!」という素直な気持ちでお願いすることが大事だそうです。またそのまま「お守り」にしたり、体の痛いところに貼ったりしても良いそうです。



参考図 御影 (Ref.2)